大学生と
留学生のための

論文ワークブック

著／浜田麻里・平尾得子・由井紀久子

【本書の特徴】

* 日本人も留学生も使える
  初めての本
* 日本人にも留学生にも
  役立つ内容
* 実際の論文の表現が身につく
* 身近な例から書くコツがわかる
* ステップに従い無理なく
  論文完成

くろしお出版

大学生と
留学生のための

論文ワークブック

浜田麻里
平尾得子　　共著
由井紀久子

Kurosio
くろしお出版

著者紹介

浜田 麻里（はまだ まり）
大阪府生まれ。大阪大学大学院文学研究科日本学専攻博士後期課程退学。
現在、京都教育大学准教授。

平尾 得子（ひらお とくこ）
大阪府生まれ。大阪大学大学院文学研究科日本学専攻博士後期課程退学。
現在、大阪大学日本語日本文化教育センター准教授。

由井 紀久子（ゆい きくこ）
兵庫県生まれ。大阪大学大学院文学研究科日本学専攻博士後期課程修了。文学博士。
現在、京都外国語大学日本語学科教授。

大学生と留学生のための
論文ワークブック

1997年 4月 1日 第 1刷発行
2011年 10月 1日 第 18刷発行

著者 浜田麻里 平尾得子 由井紀久子

装丁 藤田 里子
印刷 モリモト印刷

発行 くろしお出版
〒113-0033
東京都文京区本郷 3-21-10
電話 03-5684-3389 FAX03-5684-4762
http://www.9640.jp/

© Hamada Mari, Hirao Tokuko, Yui Kikuko 1997, Printed in Japan.

ISBN978-4-87424-127-1 C3081

この本を使って学ぶみなさんへ

○この本は、次のような人がレポートや論文（以下では２つをまとめて論文と呼ぶ）を書く練習をするために作られています。

1　はじめて日本語で論文を書く人

2　これまでに何回か論文を書いたことがあるが書き方に自信がない人やもっと上手に書けるようになりたい人

先生と一緒に勉強する場合でも、自分一人で勉強する場合でも、この本を使うことができます。

○この本を使うと、次のようなことを学ぶことができます。

1　論文の組み立て方

2　論文を書くために知っておかなければならないことばのルール

なおこの本は主に大学レベルの文科系の分野の論文を書くことを目標にしています。

○論文を書くのが上手になるためには…

1　他の人が書いた論文をたくさん読みましょう。論文を読みながらこの本で知ったことばのルールや論文の組み立て方が実際にどのように使われているかを観察してみましょう。

2　自分が書いた論文をできるだけたくさんの人に読んでもらいましょう。自分が言いたいことが理解してもらえたかどうか、読んだ人に意見を聞きましょう。

この本で論文の書き方をしっかり勉強し、この２つを実行すれば、論文を書くのがどんどん上手になるでしょう。頑張ってください。

○この本は次の３つの部分に分れています。

1　基礎編

論文と普通の作文のことばづかいの違いや　、　。「　」などの記号の使い方など、論文を書くための基本的なルールを知ることができます。ルールをもうよく知っているという人はこの部分をとばしてもよいでしょう。

2　論文編

論文編ではまず「論文ってどんなもの」で論文の基本的な構成とその作り方を学びます。そのあと「序論」「本論」「結び」の３つの順に詳しく書き方を練習します。各々の終わりには「書いてみよう」があります。ここでは練習した内容に基づいて「日本は豊かか」をテーマにして、あるいは自分で自由にテーマを決めたり資料を集めたりして論文を書いてみましょう。指示に従って論文編の最後まで進むと論文を１本完成させることができます。

3　資料編

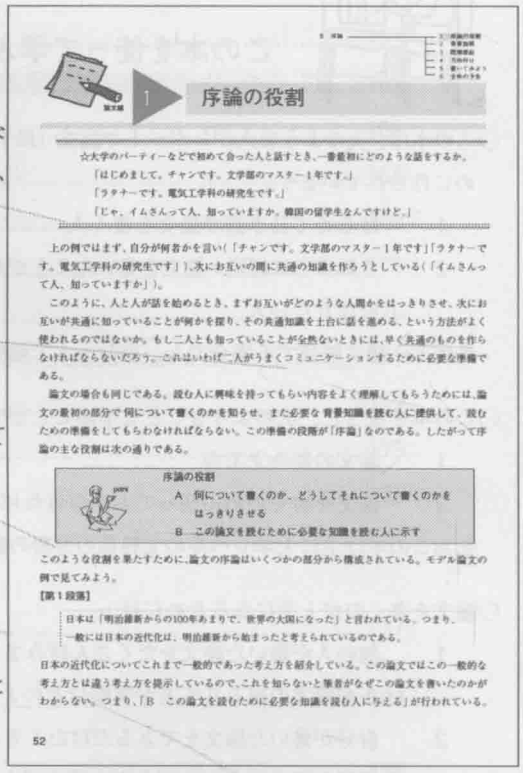
ここでは論文によく使われる表現や論理の展開の方法をまとめて紹介しています。どの論文にも必要な表現というわけではありませんので、あとで必要になったときに練習してもよいでしょう。

論文編

論文を書くときの考え方は日常生活におけるさまざまな行動と共通点があります。どんなところが似ているか、☆に示された質問に答えながら考えてみましょう。

☆の質問に対する説明。質問に対する答えがすぐわかる人はここをとばしてもよいでしょう。

説明の中の重要な部分をpointとしてまとめて示してあります。



1 序論の役割

☆大学のパーティーなどで初めて会った人と話すとき、一番最初にどのような話をするか。

「はじめまして。チャンです。文学部のマスター1年です。」

「ラタナーです。電気工学科の研究生です。」

「じゃ、イムさんって人、知っていますか。韓国の留学生なんですけど。」

上の例ではまず、自分が何者かを言い(「チャンです。文学部のマスター1年です」「ラタナーです。電気工学科の研究生です」)、次にお互いの間に共通の知識を作ろうとしている(「イムさんって人、知っていますか」)。

このように、人と人が話を始めるとき、まずお互いがどのような人間かをはっきりさせ、次にお互いが共通に知っていることが何かを探り、その共通知識を土台に話を進める、という方法がよく使われるのではないか。もし二人とも知っていることが全然ないときには、早く共通のものを作らなければならないだろう。これはいわば二人がうまくコミュニケーションするために必要な準備である。

論文の場合も同じである。読む人に興味を持ってもらい内容をよく理解してもらうためには、論文の最初の部分で何について書くのかを知らせ、また必要な背景知識を読む人に提供して、読むための準備をしてもらわなければならない。この準備の役割が「序論」なのである。したがって序論の主な役割は次の通りである。

序論の役割
A 何について書くのか、どうしてそれについて書くのかをはっきりさせる
B この論文を読むために必要な知識を読む人に示す

このような役割を果たすために、論文の序論はいくつかの部分から構成されている。モデル論文の例で見てみよう。

【第1段落】

日本は「明治維新からの100年あまりで、世界の大国になった」と言われている。つまり、一般には日本の近代化は、明治維新から始まったと考えられているのである。

日本の近代化についてこれまで一般的であった考え方を紹介している。この論文ではこの一般的な考え方とは違う考え方を提示しているので、これを知らないと筆者がなぜこの論文を書いたのかがわからない。つまり、「B この論文を読むために必要な知識を読む人に与える」が行われている。

52

＜ことば＞

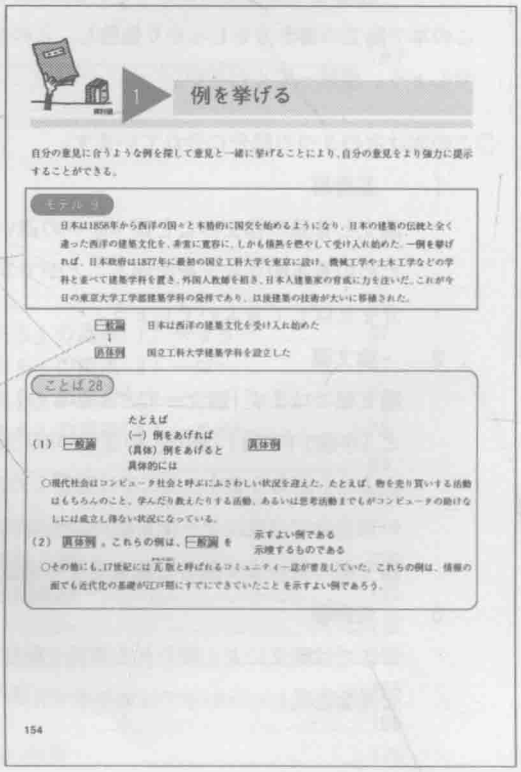
実際に論文を書くために使う表現を例文と共にまとめたものです。

資料編

＜モデル＞

よく見られる文章のパターンをまるごと取り出しました。

モデルの内容の分析



1 例を挙げる

自分の意見に合うような例を探して意見と一緒に挙げることにより、自分の意見をより強力に提示することができる。

モデル 9

日本は1858年から西洋の国々と本格的に国交を始めるようになり、日本の建築の伝統と全く違った西洋の建築文化を、非常に驚彩に、しかも情熱を燃やして受け入れ始めた。一例を挙げれば、日本政府は1877年に最初の国立工科大学を東京に設け、機械工学や土木工学などの学科と並べて建築学科を置き、外国人教師を招き、日本人建築家の育成に力を注いだ。これが今日の東京大学工学部建築学科の発祥であり、以後建築の技術が大いに移植された。

一般論 日本は西洋の建築文化を受け入れ始めた
↓
具体例 国立工科大学建築学科を設立した

ことば 28

(1) 一般論 たとえば / (一) 例をあげれば / (具体) 例をあげると / 具体的には 具体例

○現代社会はコンピュータ社会と呼ぶにふさわしい状況を迎えた。たとえば、物を売り買いする活動はもちろんのこと、学んだり教えたりする活動、あるいは思考活動までもがコンピュータの助けなしには成立し得ない状況になっている。

(2) 具体例 。これらの例は、一般論 を 示すよい例である / 示唆するものである

○その他にも、17世紀には入版と呼ばれるコミュニティー誌が普及していた。これらの例は、情報の面でも近代化の基礎が江戸期にすでにできていたことを示すよい例であろう。

154

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

論文編

タスク　21

「生糸売買が41年から激減した」ことを述べるために使うデータとして適当なものはどれか。

a．生糸売買は41年から激減する。中国動乱の影響もあったようだが、前年の40年に輸入したのが6万余斤＊だったのに対し、41年には9月7日の取引開始にあたって売買できる生糸は3万斤であった。42年から輸入はさらに少なくなった。44年の増量は100斤だったが、46年に売ることができたのは2765斤だった。（斤：重さの単位。1斤は約600グラム）

b．生糸売買は41年から激減する。中国動乱の影響もあったようだが、前年の40年に6万余斤を輸入したのに対し、41年には9月7日の取引開始にあたって売買できる生糸は3万斤しかなかった。42年から輸入はさらに少なくなった。44年に100斤増量した以外は減少の一途で、46年には2765斤しか取引できなかった。

c．生糸売買は41年から激減する。中国動乱の影響もあったようだが、前年の40年に6万余斤を輸入したのに対し、41年には9月7日の取引開始にあたって売買できる生糸は3万斤あった。44年には100斤増量した。46年には2765斤売ることができた。

（文献33一部改）

「減少」という現象は物がある状態からない状態へと移行していくことを表しているので、マイナス方向の表現を用いてデータ提示を行うとよい。なお、数量データの書き方については、p.134の資料編「1　図表に関する表現」を参考にすること。

ことば 9

プラス方向を目指すタイプ

（1）［動詞肯定形］

○46年には2765斤売ることができた。

○100斤の増量があった。

（2）数値　に（も）　及ぶ／達する／至る／上る

○1992年現在で日本から海外に派遣されている労働者は3万4000人にものぼる。

（3）概数　を　はるかに／大きく　超える／越す／上回る

○この場合Yesと回答した被験者は10.6人で、10人を超えた。

（4）概数　以上

○90％以上の人が行くと答えている。

マイナス方向を目指すタイプ

（5）数値　にすぎない／に止まる／に抑えられる／のみである

○15～19歳の非自発的な離職は8.3％にすぎない。

（6）数　しか　～ない

○46年には2765斤しか売ることができなかった。

（7）概数　に（も）　満たない／及ばない

○結婚後、夫婦別姓がよいと答えた人は5％と、1割にも満たない。

（8）概数　以下／より少ない／未満／足らず

概数　を　はるかに／大きく　下回る

○正答率は30.8％と、半数を遥かに下回っている。

方向性を示さないタイプ

（9）～（の）は　数値　である

○46年に売ることができたのは2765斤だった。

○15～19歳の非自発的な離職は8.3％である。

次のa～eのデータの文に合う意見をア、イから選べ。

例．県庁の数多くのポスト中で中央省庁から出向した官僚が占める数は、1,000人に満たない。⇒イ

a．中央省庁から地方に出向している官僚は776人にも上る。

b．官僚が地方出向している事実は、新聞で一度簡単に触れられただけにとどまっている。

c．東京都（36人）、長崎県（23人）など5都道府県で20人を超え、平均でも約14人に達する。

d．東京都の36人は例外的で15人以上の官僚を抱える県は半数にも満たない。

e．中央省庁から地方の都道府県庁へ出向している官僚の数は、東京都で36人、長崎県で23人である。

ア．多くの官僚が地方出向していることは大きな問題である。

イ．官僚が地方出向していることはあまり問題とならない。

［　　］を参考にして、a～eの下線部分＿＿＿＿にデータの文を書け。

a．日本の物価は高すぎるのではないか。コメを例にあげて言うと、＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

［コメ］キロの値段⇒日本：500円、オーストラリア：100円］

具体例を身の回りから探して、一般論を説明する文を書け。

例．一般論：セットメニュー方式ではビタミンが不足する。

⇒セットメニュー方式ではビタミンが不足する。例えば唐揚げ定食には唐揚げにキャベツの千切りが添えられているが、キャベツにはビタミンCが含まれているだけで、一日に必要なその他のビタミンについては何十分の一しかとることができない。

a．一般論：現代の生活においてバイオテクノロジーはなくてはならないものである。

b．一般論：他の文化を理解する場合、目に見えないものを理解するのは難しい。

c．一般論：日本の企業のシステムの中には伝統的な考え方に基づいたものが数多くある。

コラム13　「これ」「それ」「あれ」？どれ？—指示詞の使い分け—

論文では「それ」「その」よりも「これ」「この」の方が多く使われる。「あれ」「あの」は用いられない。

○調査の結果、表のようなデータを得た。この結果は予想に一致している。

○冬には乾燥した強い風が吹く。これをフェーン現象という。

○また、「休日に何をしてよいかわからない」と答えた人の数もまだかなり多い。このように、日本人はまだ余暇の過ごし方がうまいとは言えない。

「それ」「その」が使われるのは次のような場合である。

（1）対比の意味をあらわすとき

○10代では賛成と答えた人が過半数を占める。それに対して、70代以上では賛成という答えはほとんど見られない。

（2）他の人の論文の内容を説明するとき

○関宮（1989）は日本企業の経営戦略を分析し、その結果日本企業の特異性を3つ指摘している。

＜タスク＞

論文の考え方が理解できたかどうか確認する問題です。

＜練習＞

論文を部分にわけて実際に書いてみる練習です。

＜コラム＞

間違えやすい文法や論文をまとめるときの考え方などを取り上げています。

この他に巻末には論文編に出てくる＜ことば＞を論文の部分毎にまとめた「＜ことば＞一覧」が付いています。論文の構成を考えたり実際に文章を書いたりするとき、これを参照すると便利でしょう。

ことば の記号の見方

○は例

{ } 内の品詞のことばを入れる

( ) の付いたことばは必要な場合に使う

ことば 9

プラス方向を目指すタイプ

(1) {動詞肯定形}

○46年には2765斤 売ることができた。

○100斤の増量が あった。

(2) 数値 に (も) 及ぶ／達する／至る／上る

○1992年現在で日本から海外に派遣されている労働者は3万4000人 にものぼる。

(3) 概数 を [はるかに／大きく] 超える／超す／上回る

○この場合Yesと回答した被験者は10.6人で、10人 を超えた。

(4) 概数 以上

○30% 以上の人 が行くと答えている。

マイナス方向を目指すタイプ

(5) 数値 にすぎない／に止まる／に抑えられる／のみである

文の種類 (p.44) を示す

／で区切られたことばの中から適当なものを選ぶ

□の内容にあてはまることばを入れる

いずれか適当なことばを使う

方向性を示さないタイプ

(9) ～ (の) は 数値 である

○46年に売ることができた のは 2765斤 だった。

○15～19歳の非自発的な離職 は 8.3% である。

～に適当なことばを入れる

この本を使って教える方へ

○この本では主に文科系の分野のテーマについて一般的な表現を中心に取り上げて素材としています。クラスでは学生の専門分野の論文の実物など、学ぶ人の背景や興味に応じた適当な材料を練習に加えて指導の充実を図ってください。

○この本の練習問題のうち＜タスク＞はクラス全体で、＜練習＞は個人ごとに練習することを想定して書かれています。

目次

この本を使って学ぶみなさんへ v
<ことば>の記号の見方 viii
この本を使って教える方へ viii

基礎編 1

1　よく使われる文の形 2
2　よく使われる語と表現 5
　2—1　論文で使ってはいけない語と表現 5
　2—2　論文でよく使われる語と表現 7
3　引用 9
　3—1　引用 9
　3—2　要約 11
4　句読点 13
　4—1　句点 13
　4—2　読点 13
5　表記規則 16
　5—1　横書きの場合 16
　5—2　縦書きの場合 18
　5—3　手書き原稿 18
　5—4　ワードプロセッサ原稿 19
6　まとめの練習 20

論文編 23

Ⅰ　論文ってどんなもの？ 23
1　論文とは 24
2　論文の構成 26
3　構成の作り方 29
4　本論のまとめ方 32
5　書いてみよう① 43
6　3種類の文 44

7　書いてみよう②……46
8　論文のモデル……48

Ⅱ　序論……51
1　序論の役割……52
2　背景説明……55
2―1　事物の説明……56
2―2　先行研究の紹介……57
2―2―1　先行研究の概要の紹介……59
2―2―2　先行研究の部分的紹介……61
3　問題提起……64
3―1　問題点を指摘する……64
3―2　疑問を示す……67
4　方向付け……69
4―1　目的の明示……70
4―2　問題解決の方法……71
5　書いてみよう……74
6　全体の予告……75

Ⅲ　本論……79
1　本論の役割……80
2　論拠提示……84
2―1　データ提示……85
2―1―1　事柄データ……86
2―1―2　数量データ……87
2―1―3　文章データ……90
2―2　意見提示……93
2―2―1　データ解釈……95
2―2―2　考察……96
3　結論提示……100
4　行動提示……105
4―1　部分の予告……106
4―2　部分のまとめ……108

5　論の展開 111
6　書いてみよう 115

Ⅳ　結び 117
1　結びの役割 118
2　全体のまとめ 121
3　評価 126
4　展望提示 129
5　書いてみよう 132

資料編

Ⅰ　場面別表現集 133
1　図表に関する表現 134
1—1　図表を紹介する 134
1—2　数に関する表現 135
1—3　図表を用いて説明する 140
1—4　図表に示されたデータの解釈を提示する 141
2　資料に関する表現 145
2—1　使用する資料を示す 145
2—2　古語や外国語の資料を引用する 146
3　調査・実験に関する表現 148
3—1　調査の概要を示す 148
3—2　実験の概要を示す 150

Ⅱ　展開の技術 153
1　例を挙げる 154
2　対比する 156
2—1　類似点を挙げる 156
2—2　相違点を挙げる 157
3　注目させる 159
4　推論を示す 161
5　結論の補強 164

Ⅲ　卒業論文、学術論文のために 167
1　論文の付属要素 168
1−1　表題 168
1−2　要旨 168
1−3　キーワード 169
1−4　目次 170
1−5　付記 170
1−6　注 171
1−7　参考文献 172
1−8　付録 175
2　書いてみよう 176

＜ことば＞一覧 177

引用文献番号および出典 184

参考資料 186

あとがき 187

＜別冊＞　解答編

コラム
1　終わりよければ…　―文末の表現― 15
2　論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法（1）―なら― 31
3　論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法（2）―ば― 47
4　論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法（3）―と― 77
5　論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法（4）―たら― 78
6　主語を表す「…は」「…が」（1）―は― 83
7　主語を表す「…は」「…が」（2）―が― 104
8　「…から」「…ので」「…ため」（1）―Ｆの文と理由節― 110
9　「…から」「…ので」「…ため」（2）―Ａの文と理由節― 120
10　「…から」「…ので」「…ため」（3）―Ｏの文と理由節― 131
11　「…から」「…ので」「…ため」（4）―まとめ― 132
12　「～た」と「～ている」の使い分け 152
13　「これ」「それ」「あれ」?どれ?　―指示詞の使い分け― 155
14　「分類」 166
15　「学生を育てる」指導と「学生が育つのを補助する」指導 176

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

基礎編

1　よく使われる文の形
2　よく使われる語と表現
3　引用
4　句読点
5　表記規則
6　まとめの練習

論文で使われる特殊な言葉づかいや、、。「　」などの記号の使い方など、論文を書くための基本的なルールを知ろう。

1 よく使われる文の形

論文の文章は、手紙などと違って特定の人が読むことを前提としていないため、「です・ます」を使わずに書くのが普通である。「申しあげる・おっしゃる」「お言葉・ご意見」などの敬語も用いない。また、新聞の文とも異なって、倒置文や省略文、名詞止めの文なども使われない。

ここでは論文で使う文の形はどのようなものかをまとめて紹介する。

(1) 名詞文

ふだん使われる文の形	論文で使われる文の形
a. 結果を示したのが Table 3 です。	結果を示したのが Table 3 である。
b. 急速に増大した時期でした。	急速に増大した時期 であった。
c. 税金の引上げ率は 2.7 %。	税金の引上げ率は 2.7 % である。
d. 税率を引き上げる模様。	税率を引き上げる模様である。

新聞では「～だ」で終わる普通体が見られるが、論文ではこの形はあまり用いられない。またｃｄのような「である」を省略した形(名詞止めの文)も避ける。

(2) 形容詞文

a. ～と言い換えた方がいいです。	～と言い換えた方が よい。
b. むしろ共通性の方が重要です。	むしろ共通性の方が 重要である。

(3) 動詞文

a. 次のことがわかります。	次のことが わかる。
b. 対称空間の場合を述べましょう。	対称空間の場合を 述べよう。
c. 米国で修士号を取得。	米国で修士号を 取得した。
d. 説明しておきたい、この事件について。	この事件について 説明しておきたい。

新聞では c のような「～する」を省略した形がよく用いられるが、論文ではこのような省略形は用いない。d のように述語の動詞が前に移動した形(倒置文)も避ける。

(4) 助動詞類

a. 必ず合うわけではありません。	必ず合う わけではない。

b．これは～からでしょう。	これは［～から だろう。 ～から であろう。
c．～することができるでしょう。	～することが［できるだろう。 できよう。
d．検討を待たなければいけません。	検討を［待たねばならない。 待たなければなるまい。

（5）　受け身文・自発文

a．この問題をよく新聞が取り上げている。	この問題がよく新聞で 取り上げられている。
b．(皆は) ～とよく言っている。	～とよく 言われている。
c．(多くの人が) ～について研究している。	～についての研究 が 数多く なされている。
d．(私は) ～が理由だと思います。	(筆者には) ～が理由だと 思われる。
e．(私は) ～と考えます。	(筆者には) ～と 考えられる。

一般に言われている意見・考えなどは、ふつうａｂｃのような受け身文で書く。また、自分の意見を書くときにも、ｄｅのように受け身文のような形(自発文)を使い、「論を進めれば自然と～という意見になる」、「～という意見になるのは自然だ」ということを表す。

（6）　意志・願望を表す文

a．～について述べたいです。	～について［述べたい。 述べたいと思う。
b．～について考えてみようと思います。	～について［考えてみよう。 考えてみようと思う。
c．詳しくは4章を［見てほしいです。 見てください。	詳しくは4章を［見られたい。 見てもらいたい。

（7）　文の接続

a．まず～について簡単に述べて、次に～を検討して、最後に～について考えてみたいと思う。	まず～について簡単に 述べ、次に～を検討し、最後に～について考えてみたいと思う。
b．出産率は現在ほど高くなくて、人口は 20 万人に押さえられていて、安定した社会であったと言える。	出産率は現在ほど 高くなく、人口は 20 万人に押さえられており、安定した社会であったと言える。
c．通勤時間がかかるし、賃金は低いし、休みがないなど、労働条件は非常に悪い。	通勤時間がかかり、賃金は低く、休みがないなど、労働条件は非常に悪い。

ａのような「述べて、検討して」というテ形接続の繰り返しは避け、「述べ、検討し」のような連用

中止(ちゅうし)の形をとる。その場合「いる」は、bにあるように「い」ではなく「おり」になる。また、「～し～し」も使うのを避ける。

（8） 敬語

a．山田先生は～とおっしゃっている。	山田 氏は～と 述べている。 山田(1995)は～と 述べている。
b．私は～で調査させていただいた。	筆者は ～で 調査した。

謝辞を述べる部分など特別な場面では、例外的に敬語や「です・ます」を用いることがある。

○本稿をまとめるにあたり、鈴木花子先生から貴重な ご指摘をいただいた。

○この論文に対して有益なコメントを 下さった 山田弘氏に 感謝いたします。

次の文を論文に適した文体に書き換えよ。

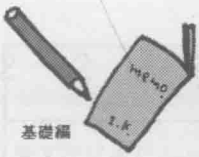
a．この事実は法観念が変化したことを示していると言えるでしょう。

b．10世紀に入って、Aの数は減少して、BやCが増大して、Aと国との結びつきは弱まりました。しかし、この時期Aは外国と結合する力を強めたと思います。

c．都市が抱える深刻な問題は人口が年々減っていること。そこで、この問題をどのように解決すればいいのか考えてみたいです。

d．調査団は6月、発掘調査を行うことを決定。3カ月の準備期間をおいて9月24日に調査を開始した。調査には鈴木先生もご参加になった。

e．しかし、同じ時間の流れが速くなったり遅くなったりするのはなぜなのでしょうか。ここで時間の流れとは何かということが問題になると思います。まずは、次のような事例から考えてみようと思います。



2　よく使われる語と表現

「1　よく使われる文の形」で見たように、論文では「です・ます」は使わない。その他にも、話し言葉特有の語や表現は使わない。例えば、「やっぱり」の代わりに「やはり」にする、あるいは終助詞の「～ね」「～よ」を使わないなど、論文では書き言葉を使う。また、書き言葉の中には論文特有の表現もある。

論文ではどのような語や表現を用いるか、「2－1　論文で使ってはいけない語と表現」で話し言葉と書き言葉の違いを述べ、「2－2　論文でよく使われる語と表現」で論文特有の表現を整理して示す。

2－1　論文で使ってはいけない語と表現

(1)　終助詞

論文で使ってはいけない語と表現	論文で使われる語と表現
a．影響力があるって言っている。	影響力がある と 言っている。
b．こちらの方が一般的だよね。	こちらの方が一般的である。
c．明らかになったなぁと思う。	明らかになったと思う。

他に「さ」「ぞ」「ぜ」「わ」などの終助詞も論文では使用しない。

(2)　縮約形（しゅくやく）

a．失敗しちゃう。	失敗し てしまう。
b．正しい予測じゃない。	正しい予測 ではない。
c．先に述べとく。	先に述べ ておく。

この他にも「～しなきゃ」「～してる」など話し言葉特有の表現は用いない。

(3)　擬声語（ぎせいご）・擬態語（ぎたいご）

d．どんどん変わっていく。	急速に 非常に　変わっていく。
b．ぺらぺら話している。	流暢（りゅうちょう）に よどみなく　話している。
c．ごちゃごちゃになっている。	混乱 している。

（4） その他の話し言葉

a．すごく難しい問題	大変 非常に ］ 難しい問題
b．たぶん ひょっとすると ］ ～である。	おそらく ～である。
c．ちょっと違いがある。	少し 若干（じゃっかん） ］ 違いがある。
d．やっぱり同じである。	やはり 同じである。
e．たくさんの いっぱいの ］ 例がある。	多くの 数多くの 多数の ］ 例がある。
f．どっちの場合でも同じ結果	どちら いずれ ］ の場合でも同じ結果
g．どっちにしても どっちみち ］ 大差ない。	いずれにしても いずれにせよ ］ 大差ない。
h．こんな こんなふうな ］ 例	このような 例
i．欧米なんかでは	欧米 など では
j．AとかBとかがある。	A や B など がある。
k．教育みたいに大きな問題	教育の ように 大きな問題
l．～である。でも～。	～である。［ しかし しかしながら ］ ～。
m．結果が得られなかったけど	結果が得られなかったが
n．あと次のような問題もある。	なお ただし ］ 次のような問題もある。
o．～である。［ だから それで ］ ～といえる。	～である。［ ゆえに それゆえ したがって ］ ～と言える。

（5） 筆者についての知識がないとわからない表現

a．今年の夏に調査した。	1994年 の夏に調査した。
b．この近辺の小学生45人に聞き取り調査をした。	大阪府豊中市内 の小学生45人に聞き取り調査をした。

ただし、「阪神大学は大阪府豊中市にある。この 近辺は～」の「この」のように前の文の一部を指す使い方は問題がない。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com